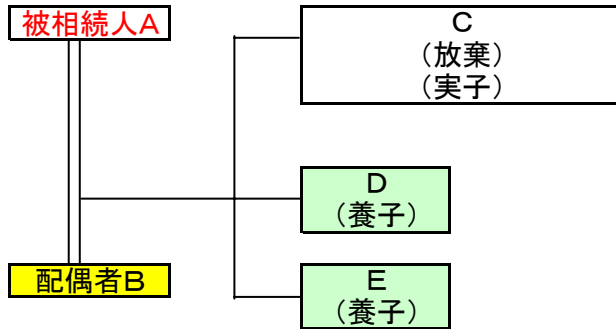


相続人・法定相続人・法定相続人の数 関係図

ここでは、いままで説明をしてきました、相続人・法定相続人・法定相続人の数がどのように違ってくるかを、具体例でみていきましょう。

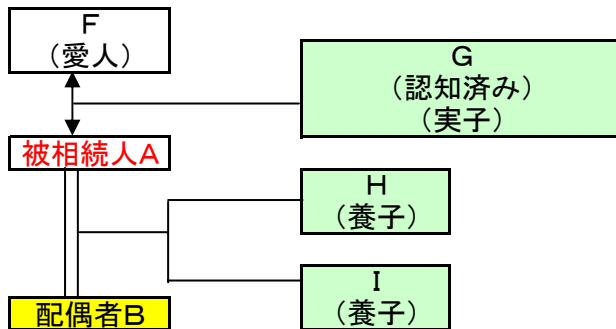
(例1)



相続人	B、D、E
法定相続人	B、C、D、E
法定相続人の数	B、C、D(またはE)の3人

*Cは放棄をしているため、相続人にはなれません。

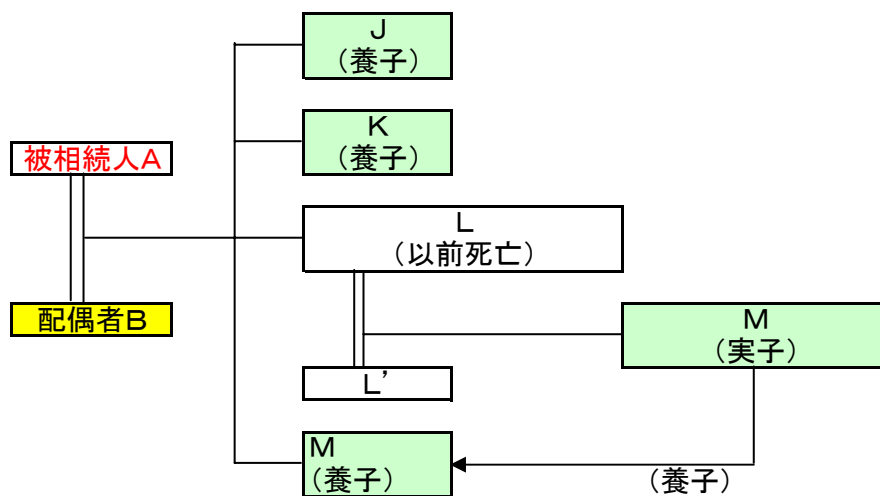
(例2)



相続人	B、G、H、I
法定相続人	B、G、H、I
法定相続人の数	B、G、H(またはI)の3人

*認知をしていれば、相続人となります。(実子にもなります)

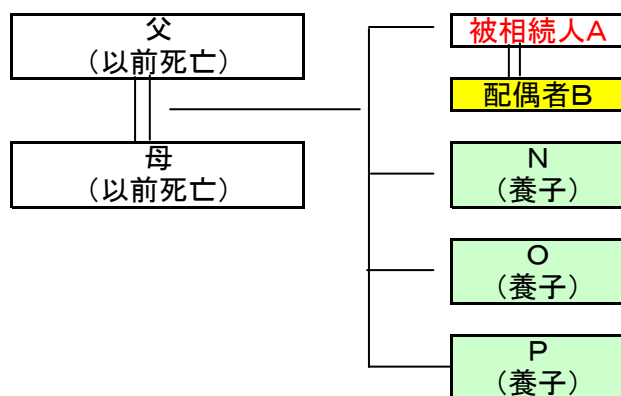
(例3)



相続人	B、J、K、M
法定相続人	B、J、K、M
法定相続人の数	B、J(またはK)、Mの3人

*Mは、二重身分を有するものです。

(例4)



相続人	B、N、O、P
法定相続人	B、N、O、P
法定相続人の数	B、N、O、Pの4人

*法定相続人の数の制限は、第2・3順位の者には適用はありません。

*そのため、このケースでは法定相続人の数は4人となります。